

「リトルボートストーリー3 自由の船」

作・有吉朝子

《あらすじ》

松竹大船撮影所の人々に愛された喫茶室「リトルボート」。撮影所が跡形もなくなった今も、ここには鎌倉の人々が集まる。子供食堂と朗読サークルが運営され、どちらも名前は「自由の船」。朗読会の次回作は源実朝と陳和卿が夢見た巨大な船の建設を、動物たちが時代と種族を超えて実現する、そんなお話。しかし書きあぐねた作者はゾンビのように彷徨うばかり…。

〈登場する人物〉

女性 11名
男性 3名

小動浜子 七〇代。喫茶室、「リトルボート」の店主。朗読サークルと「みんな食堂」を主催。

小動あおい 五〇代。「湘南新聞」に勤務。浜子の義理の娘。

小動ゆりあ 二〇代。大学生。あおいの娘。

稲村君江 六〇代。旧姓小早川。元図書館司書。

稲村泰三 六〇代。君江の夫。退職後、観光ガイドをしている。鎌倉の歴史に詳しい。

御堂なつみ 五〇代。朗読サークルの会員。

笠間マチ子 五〇代。「サロンド・マチコ」の店主で美容師。

五十川ハルカ 一〇代、小学生。

五十川りえ 三〜四〇代、ハルカの母。シングルマザー。

青木ひかり 一〇代、小学生。「みんな食堂」の利用者、ハルカの友達。

青木拓司 四〇代。ひかりの父親。妻と死別している。

西条久美 四〜五〇代。りえの上司。

横山まゆ 二〇代。りえの後輩、妊娠中。

栗島さん 「田園工務店」の店主。

〈登場する動物〉

女性 5名
男性 3名

うし子 (年長の女性) ハルカと仲良しの、ホルスタイン柄をしている猫。

ステファン (男性) フレンチレストランで飼育されているヤギ。

カトリーヌ (女性) 同じくヤギ。彼女のミルクでチーズなどが作られ、レストランの客に好評。

シヤオミー (女性) 材木座で飼われている猫。鎌倉時代、宋の国から陳和卿と一緒に来た由緒ある猫の末裔。
リンリン (子猫) シヤオミーの子ども。

腹切りやぐらのお嬢 (年長の女性) 腹切りやぐらとは、鎌倉時代の終わり、北条一族が滅亡時に腹を切った洞窟。八百人以上がそこで果てたと言われる。その周辺に生息するタヌキ。

豪華(ごうか) (男性) 豪壮なお屋敷で飼われているオスの孔雀。
絢爛(けんらん) (男性) 豪壮なお屋敷で飼われているオスの孔雀。

〈時・場所〉

現代。
鎌倉に住む動物たちが集う秘密の場所と、喫茶室「リトルボート」

〈第一場〉

動物の時間。

暗い中、シヤオミーとお嬢にスポットライトがあたる。
シヤオミーはチャイナ服のような装い。
お嬢はゴテゴテと盛り沢山な、しかしそれなりにバランスが取れたお洒落をしている。
動物たちの発音はあくまで正確。例えば「皆様」を「みニヤさま」と言うことはない。

シヤオミー 皆様、本日はようこそ。時間になりましたので始めます。私は進行を務めるシヤオミー、ごらの通り猫です。この先のお寺で娘と一緒に暮らしています、飼い猫です。

お嬢 私はタヌキ、
シヤオミー アライグマではありません。

お嬢 八幡様に近い「腹切りやぐら」に住んでいる、
シヤオミー 人呼んで「腹切りやぐらのお嬢」。

お嬢 お嬢さんさっそくですが「腹切りやぐら」って恐ろしい名前ですね。歴史と関係があるとか？

お嬢 (頷いて) 鎌倉時代の話しさ、
シヤオミー 鎌倉時代！
鎌倉幕府の執権北条高時は、新田義貞率いる朝廷軍に追い詰められ、菩提寺である東勝寺に立てこもった。必死の応戦も虚しく逃げ場を失った北条氏は近くの洞穴へ逃げ込む。女子供も含め一族郎党八〇〇人以上、ついに全員が自害した。

シヤオミー それで「腹切り」。
お嬢 曰く因縁のあるほら穴さ、今でも人間は滅多に近寄らない。つまりあの「やぐら」、我々タヌキにとっては最高の「ねぐら」ってわけ。

シヤオミー
まあ羨ましい。
お嬢 あんたも飼いなりに苦労があるだろ？ いつでも遊びにおいで。
シヤオミー こんなふうタヌキのお嬢さんと猫の私が会話できるなんて、とても貴重な
機会で嬉しいです。
お嬢 (領いて)動物同士とは言え頻繁にあることじゃないからね。猫もタヌキも、
野生も家畜も野良も。ペットも、今日ばかりは関係ない。
シヤオミー つまりは動物版、
二匹 「鎌倉カーニバル」。

君江と泰三、原稿を手に出てくる。

泰三 なるほど、鎌倉カーニバルか。
君江 考えたわね、あおいさん。

りえと久美、一方から出てくる。

泰三 (見つけて)やあ、りえさん、
りえ こんにちは。(原稿に目を留めて)あ、出来たんですか？ 朗読の台本。
泰三 まだ途中。

君江 (読んでいた)あれ？
りえ どうしたの？
君江 合唱って書いてある。
泰三 合唱？(受け取って読む)

この間、猫たちが登場して、思い思いの場所に立ったり座ったりする。

シヤオミー 一年にたった一度だけ、鎌倉の動物がお互いへの理解と親睦を深める日。
お嬢 楽しいお祭りのオープニングは、「鎌倉猫合唱隊」の歌声で始めるよ。

ゆりあ、紙の束とカゴにいれた小道具のようなものを手に出てくる。

君江 ゆりあちゃん、合唱って…

歌うの？ 朗読サークルなのに…

設定がカーニバルですから。楽譜です。

(手渡されて)楽譜？

先に覚えてもらって、って母さんが。はい小道具。

ゆりあ、小道具を配る。

お嬢 曲は、『未知という名の船に乗り』。

久美 (楽譜を見て)あ、知ってますこの曲。
君江 じゃついでくわ。
久美 え？

君江 (泰三とりえに)やってみよう。
泰三 お、おう。

お嬢

待ちに待ったカーニバルの始まりだ、さあ猫たち、存分に歌っておくれ！

シャオミー、指揮に立つ。その合図で猫と人間たちが歌い始める。

「未知という名の船に乗り
希望という名の地図を見て
夢という名のコンパスで
未来を訪ねる冒険者

心に鍵はかからない
いつでもいっぱい開いておけば
はるか銀河の彼方から
未知という名の船が着く
ちよつと不思議も ちよつと疑問も
ちよつと悩みも訪れる

間奏。

ステファンとカトリーヌが現れる。フランス生まれのヤギ、共に小粋な様子。
ステファンは魔法瓶を下げている。

カトリーヌ

賑やかね、楽しそう。

ヤギたち、猫に促されて合唱に加わり、さらに踊り始める。
ステファンはおずおずとしているが、リンリンにリードされ楽しげになる。

4

未知という名の船に乗り
勇気という名の帆をはって
愛という名の舵をとり
ぼくらはこぎ出す冒険者

心はいつもパノラマだ
楽しい世界をえがいていれば、
どんな小さい密辺にも
未知という名の船が着く
ちよつと不思議も ちよつと疑問も
ちよつと悩みも 訪れる

サバダバダバダ サバダバダバダ...

歌が終わる。

お嬢

ブラボー！

リンリン (飛びよつて) 母さんどうだった？
シャオミー 上達したわリンリン。
リンリン やったあ！
お嬢 文句なしだね、リハーサルとしては。
ステファン え？ リハーサルなんですか？ 今日ほ。

カトリューヌ
リンリン

日にちを間違えたのね、私たち。
カーニバルは一週間後だよ。

人間たち（ゆりあ、りえ、久美、君江、泰三）しばらく中の様子を見守って
から出ていく。
猫たち、「やっぱり楽しいなあ」「本番が待ち遠しい」「ほんとほんと」など、
楽しげに声をかけ合っている。

シヤオミー
猫たち
シヤオミー
猫たち
猫たち

じゃあ、次の練習が最後の合わせね、
司会も頑張つてよ、シヤオミー。
やだ、緊張しちゃうでしょ、
またまたあ、
じゃあね。

猫たち、興奮冷めやらず、それぞれ歌を口ずさんだりしながら去る。

お嬢
カトリューヌ
シヤオミー
カトリューヌ
シヤオミー
ステファン
カトリューヌ
シヤオミー
お嬢
シヤオミー
ステファン
お嬢

レベル高いねえ「鎌倉猫合唱隊」。
ホント。
あなたたちもどう？ 一緒に。
いいんですか？
もちろん。
おいおい、
いいじゃない。
じゃ、決まりね。
猫とヒツジの混声合唱か。
カーニバルならではね。
：ヤギです、
え？